



教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280
ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>



教育支援課マスコットキャラクター
しえん君

教育支援課 研修・研究グループ

スクールライフノート ～心と学びの記録・振り返り支援システム～



スクールライフノートは子どもたちが毎日、簡単な操作で「その日の気持ち」や「1日のふり返し」など、学校生活での様々なことを記録することができるシステムです。4月から市内小中学校に導入します。

子どもたちは、「心の天気」を使って、朝、帰りの気持ちを天気置き換えて表現でき、「学びの天気」では授業ごとの気持ちや学習のふり返しを記録することもできます。それらを蓄積することで、可視化された気持ちの変化を自ら振り返ることができ、自分を客観視して、コントロールする力（非認知スキル）の向上にもつなげることができます。

「いつも晴れだった子が今日は雨だけど、何かあったのかな？」

「くもりが多かった子が、最近は晴れが増えてきたな。」

先生は、子どもたちが記録した「気持ちの変化」や「学習のふり返し」など、個人の記録をクローズアップして確認することで、適切なタイミングでの「声掛け」や「支援」に活かすことができます。さらに、先生自身の授業のふり返しに利用することで、授業力向上の一助となります。



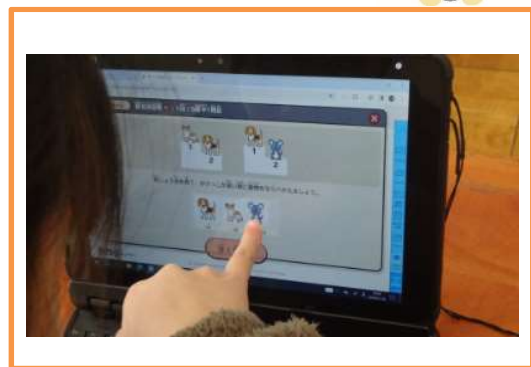
その他にも時間割や健康観察、相談ボックス、学習リンクなどの機能があります。ぜひご活用ください。

教育支援課 特別支援教育・相談グループ

コグトレ（認知機能強化トレーニング） オンライン版



発達に課題がある児童生徒に対して、個別最適化した指導や支援を目指し、特別支援学級、通級指導教室、小学校サポートルームで指導を受ける児童生徒に導入しました。見たもの聞いたものを認識する力、注意・集中を高める力、見聞きした情報を整理して、その意味や関係性を理解する力などの向上が期待できます。また、児童生徒一人一人に合わせてトレーニングができ、採点機能による即時評価、学習履歴のデータ化により、学習効果を高めることも期待できます。各校から意欲的にトレーニングに取り組む姿が見られるようになったと報告されています。



研究報告

令和5年度、教育支援課で取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり、御協力いただきました学校及び関係教職員の皆様、関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が、今後の実践に広く活用されることを願います。

第417集

研修・研究グループ 研修員 今村 優希

タブレット端末の音声入力機能を活用した 課題解決への見通しをもつことに関する研究 — 数学科授業における学習効果の検証 —

論文本文はこちら



執筆者からの一言

今回の研究を通して、ICT 機器は学習活動におけるツールの一つであることを改めて確認することができました。生徒につけたい力が何なのかを明確にし、それに応じた ICT 機器の使用方法を考えなければなりません。これまでのタブレットのあり方を授業者自身がアップデートし、これからの効果的な使用について模索していくことが大切であると感じました。

中学校数学科の授業において、音声入力機能を用いて、会話の記録を可視化することで、課題解決への見通しをもつことができるかを明らかにしました。また、学習への意欲が上がるかを検証しました。



本研究では、話し合い活動において音声入力機能を使用するクラスを実験群、音声入力を使用しないクラスを統制群として、確認テストや事前事後アンケートを用いて、比較検証を行いました。

確認テストの結果より、問題解決への見通しをもつ問題において、統制群の低学力層より実験群の低学力層の方が正答率が高くなりました。そのため、課題解決への見通しがもてたといえます。また、事後アンケートの回答結果より、多数の生徒が音声入力機能による会話の記録を参考に課題に取り組んでおり、学習へ役立てようとする意欲的な姿が見られました。

これらの結果より、音声入力された会話の記録を活用することは、数学が苦手な生徒や、低学力層の生徒において有効であることが明らかになりました。



第418集

研修・研究グループ 長期研修員 末澤 孝浩

社会科副読本『のびゆく四日市』の活用を促進させる研究 — 認識のズレからつくる学習問題を中心に —

論文本文はこちら



執筆者からの一言

「認識のズレ」を用いた課題づくりは単元導入時に限らず、毎時の主体性を喚起させる場面でも有効に活用できると考えています。今後も、副読本の活用をはじめとする社会科の授業づくりについて模索し、研究を進めるとともに、広めていきたいと思えます。

身近な地域についての興味・関心を高め、児童自らが課題を見つけ解決していく学習活動を取り入れることで子どもたちが「課題を解決していく際の一つのツール」として、副読本を活用することが促進されるかどうかを検証しました。

本研究では調査対象クラスで検証授業の事前と事後にアンケート調査を実施し、「認識のズレ」を用いた学習問題の設定による副読本活用状況について比較検証を行いました。

事前と事後を比較すると「気になったことを自分で調べた」と回答した児童の割合が上昇しました。また、調べ学習で『のびゆく四日市』を使用した割合が同様に、事後が事前を上回る結果となりました。

これらの結果から、身近な地域についての興味・関心を高め、児童自らが課題を見つけ解決していく学習活動を取り入れることで子どもたちが進んで調べ学習に取り組もうとし、課題を解決していく際の一つのツールとして副読本を使うことが促進されたと考えます。



※執筆者の顔写真はAI技術でイラスト化しております

各研究の詳しい内容は、教育支援課までお問い合わせください。また、四日市市立教育センター・視聴覚センターのホームページで、閲覧・ダウンロードをして頂けます。
(下記をご参照ください)



第419集

四日市市登校サポートセンター

指導員 芦澤 洋美、上野 藤子
川合 由佳、倉田 優希

不登校の未然防止についての一考察

—小学校における援助要請態度の育成にむけて—

論文本文はこちら



執筆者からの一言

不登校の未然防止という観点から、児童たちに援助要請スキルを高めることができるかどうかを検証しました。今後は、様々な場面設定で援助要請スキルの授業を実施したり、授業と並行してソーシャルスキルトレーニングを取り入れたいです。

不登校を未然に防止するために、援助要請態度の育成を目的に開発された自殺予防教育プログラムを、不登校予防用アレンジし、実施することで、児童の学校不適応に対する援助要請スキルが高まるかを検証しました。

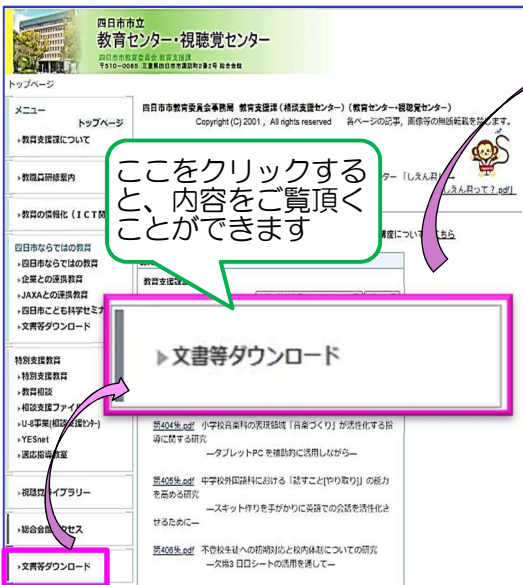
本研究では調査対象学年に、援助要請態度の育成を目的とした不登校予防プログラムの授業を2時間実施しました。児童には2時間の授業を受ける前、2時間の授業を受けた後、2回目の授業から10日後にアンケートを実施し、援助要請スキルの変化を比較、分析しました。

調査結果から、今回の授業は不登校リスクのある児童のうちQ・Uにおけるリスク群に当たる児童に効果的であったことがわかりました。また、授業実施後に児童から担任への相談回数が増えたり、児童が「困ったときは相談するんだよ」と友達に発言したりしていることから、授業を実施したことで援助要請スキルの重要性を児童たちに気づかせることができたと考えます。

「研究報告」を活用しよう！

上述の「研究報告」の詳細は、四日市市立教育センター・視聴覚センターのホームページ（「文書等ダウンロード」のページ）で、ご覧頂けます。また、今夏の教職員研修講座で研究報告を行います。ご参照頂き、日々の実践にご活用願います！

研究年度	研究番号	課題・内容
令和5年度	第419集	不登校の未然防止についての一考察
	第418集	社会科副読本『のびゆく四日市』の活用を促進させる研究
	第417集	タブレット端末の音声入力機能を活用した課題解決への見通しをもつことに関する研究
令和4年度	概要版	令和5年度研究調査報告 第417集～第419集 概要
	第416集	校内ふれあい教室での支援についての一考察
	第415集	音声文字化アプリによって実現される学びの可能性
	概要版	令和4年度研究調査報告 第415集～第416集 概要



ここをクリックすると、内容をご覧頂くことができます

令和6年度夏季教職員研修講座に注目！研究報告を行います！

日時・場所	内容
令和6年7月26日(金) 13:30～16:30 (総合会館8階 視聴覚室)	登校サポート教員研修会②にて 「小学校における不登校の未然防止に関する一考察 — 小学校における援助要請態度の育成にむけて —」 令和5年度登校サポートセンター 指導員 芦澤 洋美
令和6年8月7日(水) 9:00～12:00 (総合会館7階 第1研修室)	講演・演習 「教師のための Google For Education — ICT 活用のさらなる広がりをめざして — (仮)」 Google For Education Sales Exective 新田 拓也 研究発表 「タブレット端末の音声入力機能を活用した課題解決への見通しをもつことに関する研究 — 数学科授業における学習効果の検証 —」 令和5年度研修員 今村 優希
令和6年8月21日(水) 9:30～12:00 (総合会館7階 第1研修室)	講演 「社会科で実現する豊かな学び — これからの授業デザインを考える — (仮)」 関西学院初等部 教諭 宗實 直樹 研究発表 「社会科副読本『のびゆく四日市』の活用を促進させる研究 — 認識のすれからつくる学習問題を中心に」 令和5年度長期研修員 教諭 末澤 孝浩

各論文とその概要版は
こちらから⇒

